

## 第33回広瀬川創生プラン策定推進協議会 議事録

- 日 時：平成 29 年 3 月 23 日（木曜日） 10：00～12：00
- 場 所：仙台市役所本庁舎 2 階 第 3 委員会室
- 出席委員：宮原 育子 会長、小祝 慶紀 会長代理、工藤 秀也 委員、後藤 淳 委員、杉山 ふじ子 委員、多田 千佳 委員、西大立目 祥子 委員、長谷川 裕寿 委員、深松 努 委員、幕田 浩之 委員
- 欠席委員：佐藤 克彦 委員、菅井一男議員、高橋 勝利 委員、二本柳 基 委員、畠山 美帆 委員
- 事務局：仙台市建設局百年の杜推進部河川課
- 議 題：○平成 28 年度 重点事業の評価について  
○広瀬川市民会議の運営体制強化 平成 28 年度取組の総括  
○平成 29 年度重点事業の設定について  
○広瀬川創生プラン 掲載事業の更新について

### ■ 要 旨：

- 平成 28 年度の重点事業について、いずれについてもその効果が認められ、次年度も継続することが望ましいという評価を受けた。
- 平成 29 年度の重点事業については、前年度の 4 事業について、内容を更新しつつ継続して重点事業として認定された。また、それにとまなう負担金の分配についても事務局案が承認された。
- 平成 29 年度重点事業 3 および 4 に関して、伊達政宗生誕 450 周年事業等、広瀬川の PR つながる可能性が考えられる事業等について、観光部局を含む庁内関係部局との情報交換を積極的に行うよう、提言がなされた。
- 平成 29 年度のプラン掲載事業について、既掲載事業の進捗状況については、事務局案が承認された。また、新規掲載を希望した 2 団体 5 事業については、いずれも掲載が承認された。
- 1 万人プロジェクトの清掃以外の活動も、入札時の加点対象とするはたらきかけに関しては、清掃活動時に一部の会場で人員過剰となっている課題と、各種イベントでの人員不足の課題が双方等も解決できる可能性があるため、行政とも連携して、早期実現を目指すべき、との提言がなされた。
- 「鮭の遡上」は、広瀬川について考える際のひとつのキーワードとなっている。単なる特徴的な風景として捉えるだけにとどまらず、鮭の遡上が市民や生態系に与える影響や教育素材的な側面について、漁協などとも連携を強化しながら情報公開に努めていくべきという提言がなされた。
- アユつりができる、というのも都市を流れる川としては他都市と比較しても珍しく、広瀬川の豊かな風景の一つであると考え。イベント等の集客での流域のにぎわいという観点も重要だが、人工的でない、本来の自然の姿についても PR していくべきであると考え。
- 広瀬川を上流から下流まで俯瞰的に考えるために、資料やパンフレットに流域マップを追加して、川の姿や地域性がイメージできるように努めるべきである。



## ■ 議事詳細：

### 1. 開会

#### ○司会（安田課長）

ただ今より「第33回広瀬川創生プラン策定推進協議会」を開会する。

本日は、年末のお忙しい中、ご出席いただき感謝申し上げます。なお佐藤 克彦 委員、菅井一男 議員、高橋 勝利 委員、二本柳 基 委員、畠山 美帆 委員においては欠席とのご連絡をいただいている。

### 2. ご挨拶

#### ○宮原会長

今年度もあと数日を残すところとなったが、広瀬川創生プランでは様々な活動が実施されてきた。今回の協議会では、それらの評価を行うとともに、次年度の事業についての検討も行う予定である。平成29年度も市民・企業・学識者・行政等のいろいろな主体が、手を携えて広瀬川の魅力づくり・環境保全に取り組んでいけるよう、活発な議論をお願いしたい。

#### ○村上建設局長

年度末というご多忙の中お集まりいただき、感謝申し上げます。広瀬川創生プランにつきましては、今年度も71の事業がそれぞれの主体において実施され、市民の広瀬川への関心高揚や魅力発信に貢献していただいた。本日の協議会では、それらの事業の今年度の実績評価や、取組み状況の確認に加え、次年度の重点事業の設定についてもご審議いただきたいと思っている。また、「広瀬川市民会議の組織体制強化」に関しては、これからの活動方針や行政の関わり方等について、委員の皆様から広く、忌憚のないご意見を頂戴したいと思っている。

市民の宝である広瀬川を活かしたまちづくりを行っていくべく、広瀬川のさらなる魅力創出につながる、活発なご議論となりますことをお願い申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。

### 3. 議事

#### ○司会（安田課長）

本日は全15名の委員のうち、10名の方に出席いただいております、過半数を達しているため、本会は成立している。以降の議事の進行については宮原会長にお願いする。

#### ○宮原会長

まず、今回の議事録署名は五十音順で多田委員にお願いしたいがいかがか。

＝一同了承＝

#### ○宮原会長

それでは、平成28年度重点事業の評価について、事務局から報告をお願いしたい。

#### ○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

資料1～3に沿って、各重点事業の評価について説明。

#### ○宮原会長

今の事務局からの説明について、質問等はあるか。

## ○長谷川委員

1万人プロジェクトについて、継続した取り組みにより、例年清掃している場所はゴミが少なくなってきたことが実感できてきている一方で、別の場所のゴミが気になるようになってきた。しかし、それらは一般市民が立ち入っていけるような場所ではないため、しっかりした体制を確保する必要があるが、そういった場所の清掃についても考えるような、次のステップに入ってきているといえる。

## ○深松委員

まさに自分達が1万人PJTに参加し始めたきっかけは、一般の人が清掃しづらい場所の清掃を工藤委員より頼まれたことであった。新たな会場として千代大橋会場を設けたが、これからも、これまで1万人プロジェクトで清掃できていなかった場所についても、検討していきたいと思っている。

## ○工藤委員

支流も含めて取組が必要と考えている。例えば、旧宮城地区での取り組みとして、大倉ダム周辺での清掃活動があるが、1万人プロジェクトの活動範囲を拡大してだけでなく、他団体が実施している活動についても情報提供していくことも併せて行っていく必要があると考える。その際は、前々回の協議会で報告のあった1万人プロジェクトへのアンケート結果(活動回数が増えることを懸念する企業/団体も複数あったこと)にも配慮していく必要がある。

## ○宮原会長

1万人プロジェクトの会場の分布をみると流域マップの②と③、③と④の間が空いているように見えるが、なにか清掃会場にしづらい理由があるのか。

## ○工藤委員

他団体で活動している区間もあり、配慮している部分もある。

## ○杉井室長

宮原会長から指摘のあった区間は、自然崖や護岸となっていて落差が大きく近づきづらい場所であることも理由の一つであると考えている。

## ○宮原会長

アイラブ広瀬川プロジェクトについて、年度ごとに見直しをかけて取組内容を変化させていくということが良いか。

## ○杉井室長

その通りである。

## ○宮原会長

その他、特に意見等なければ、重点事業1、3、4の評価について、事務局提案の通りとしてよいか。

＝一同了承＝

## ○宮原会長

それでは次に、広瀬川市民会議の運営体制強化 平成28年度取組の総括について、事務局より説明をお願いしたい。

## ○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

資料3に沿って、説明。

## ○宮原会長

今の事務局からの説明について、質問等はあるか。

## ○深松委員

1万人PJTのCSR活動の対象範囲を広げることについては、是非実現して欲しい。近年の働き方改革の影響で、各企業とも現在より超過勤務を増やすのは難しい状況にあると聞いている。1万人PJTからも働きかけていくが、是非、仙台市からも仙台土木へ働き掛けて欲しい。これが実現すれば、広瀬川市民会議のマンパワー不足による活動の制約も解決されるし、1万人PJT側も手持ち無沙汰になる状況も解消されると思われる。

## ○後藤委員

サケの遡上についての観察会については盛んなようであるが、もっと広めていくには、遡上したサケが食材として活用されるなど、「我々の生活にどの様に関われるのか？」というところの発信が必要ではないか。

## ○工藤委員

サケは国の管理する資源であり、取扱いが難しいという点が懸念点である。

## ○村上局長

サケは広瀬・名取川漁協が権利を有していて、広瀬川と名取川の合流地点付近で漁獲しているほか、卵のふ化および稚魚の放流も行っている。漁協との関係を確認しながら、市民の方々にわかりやすく情報提供できるようにしてまいりたい。

## ○多田委員

現時点で遡上したサケが人間の生活と直接的な関わりが無いとしても、サケが川に戻ってきて分解されることにより、海から川へ栄養がもたらされるという効果があることが研究により明らかにされてきており、食べるだけでなく、生態系という切り口で考えるのもおもしろいと思う。流域の人々だけでなく、海の向こうの場所にも影響しているというような、広い意味での広瀬川の役割について、市民センター等で講座を実施し、市民に伝えていくという視点も大切だと考える。

## ○工藤委員

サケは卵を産むと死んでしまうという特性があり、生と死を同時に見れるという観点で、子供たちへの自然教育の材料としては非常に有効であるが、市街地ではその死骸が悪臭の原因となり、市民から苦情が寄せられてしまうという実情もある。そういったところの整理や認知の向上についてこれまでも広瀬川市民会議として取り組んできたものの、まだまだ不十分であり、他団体や行政の力も借りていく必要があると感じている。

## ○宮原会長

その他、特に意見等なければ、本報告を終了して、次の議題へうつりたいがよいか。

＝一同了承＝

## ○宮原会長

それでは次に、平成29年度重点事業の設定について、事務局より説明をお願いしたい。

## ○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

資料4に沿って、説明。

## ○宮原会長

今の事務局からの説明について、質問等はあるか。

### ○多田委員

アイラブ広瀬川プロジェクトに関して、例えば「まち歩き」などの事業には旅行関係の企業等が参画する、といったことはあるのか。

### ○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

具体的にまち歩きに旅行関係企業に参加してもらい、ということまでは現段階では想定できていないが、広瀬川「学」講座については、様々な業種の企業がもっているノウハウや知識の活用は想定している。

### ○宮原会長

広瀬川を色々な人々に知らせたい、と考えるときには旅行会社をどうやって引き込んでくるのかを検討することも重要である。

### ○後藤委員

H29年は伊達政宗生誕450年記念事業が予定されており、観光という視点から新たな観光コースの設定など文化観光局でも考えていると思われる。そういったところとの連携がとれれば、自ずと旅行会社や観光といった視点を取り入れることもできるはずなので、情報交換してはどうか。

### ○宮原会長

その他、特に意見等なければ、次年度の重点事業について、事務局提案の通りとしてよいか。

＝一同了承＝

### ○宮原会長

それでは次に、平成29年度掲載事業の更新について、事務局より説明をお願いしたい。

### ○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

資料5に沿って、説明。

### ○宮原会長

今の事務局からの説明について、質問等はあるか。

### ○深松委員

新規追加希望事業の「伊達川床」について、場所はどこを想定しているのか。

### ○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

時期は通年、場所は大橋の下流付近をそれぞれ想定していると聞いている。

### ○宮原会長

同じく「伊達川床」について、時期はどのように想定しているのか。また、「エコな芋煮」については、場所はどこを想定しているのか。

### ○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

「伊達川床」時期は通年実施を想定していると聞いている。「エコな芋煮」は具体的な場所は未だ確定していないが、牛越橋の付近という話が出ている。

### ○杉山委員

「エコな芋煮」はミズベリングプロジェクトの一環である「ミズベサロン」で提案されたものであり、牛越橋周辺は芋煮が盛んなもののゴミが多いことから候補として挙がっていた。

## ○工藤委員

ミズベリングプロジェクトは、活動が活発化するにともない、それに関連した事業が多く実施されることが予想される。そのたびに、プラン掲載事業へ追加、となると同じような項目が増えてしまうことが懸念されるので、表記の仕方については検討しておくべきである。

## ○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

ミズベリングプロジェクトに関しては、実施主体を申請のあった2団体と表記しているが、実際はそれらに限られるわけではない。そのため、実施主体が増えれば、毎年の実施状況の確認の際に照会する相手先が増えていくことにはなるが、プラン掲載時に同じような項目が増えていくことはない。

## ○宮原会長

その他、特に意見等なければ、次年度のプラン掲載事業に関して、新規事業の追加および既存事業の更新内容については、事務局提案の通りとしてよいか。

＝一同了承＝

## ○宮原会長

その他、意見等のある委員はあるか。

## ○工藤委員

重点事業3「アイラブ広瀬川プロジェクト」の一つでもある「純米吟醸酒 清流広瀬川」について、4/7に今年の新酒が発売される。「広瀬川市民会議」と「及川酒店」で試飲会を実施する予定である。

## ○杉山委員

「清流広瀬川」については以前から取り組んでいたものの、市民会議としては少し活動が停滞気味であった。しかし、新しく市民会議に加入した会員が新鮮味を感じたことがきっかけで「清流広瀬川」今年度は再度応援しようという動きになっている。

## ○小祝会長代理

サケが海からの遡上する、という事象については下流域の話題であるし、川や海をきれいにするために漁協が森の整備に取り組むということが他市であったが、これは上流域の話題である。上流から下流まで一体的に取り組むことが重要であると、改めて認識した。

## ○宮原会長

サケはスターフィッシュであるが、一方で川の中で鮎釣りをしているという、都市の中にも関わらず長い釣竿で釣りを楽しんでいる人がいるという風景も、広瀬川の特徴的な豊かな景色であると感じている。また、改めてプランのダイジェスト版などを見てみると、暮らしの豊かさを示すような写真や広瀬川の地図が無いことに気付く。

## ○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

今後改善していきたい。

## ○西大立目委員

掲載事業のリストを見返してみると、広瀬川関連の活動が、非常に幅広いということがわかるが、観光を中心に進めると、先ほどの宮原会長のお話しにあった、広瀬川の豊かな景色が伝わらなくなるのではないかと。本来の広瀬川の自然、ありのままの姿を伝えていくことが大切であると考えている。

## ○宮原会長

洒落になってしまうが、「サケ(鮭)が上り、サケ(酒)ができる川」というような視点も面白いのではないか(上流でウキスキー、中流で日本酒、下流でビール)。今回追加された新たな事業も含めて、次年度も広瀬川に関する様々な活動が活発に展開されることを期待したい。

その他特に意見等が無ければ、本日、委員のみなさまより、非常に多くのご意見、ご提案をいただいた。内容については事務局で議事録にまとめていただき確認することとして、本日の議事を終了したい。

＝一同了承＝

## 4. 閉会

### ○司会(安田課長)

以上をもって「第33回広瀬川創生プラン策定推進協議会」を終了する。

以上

この議事録について、会議の内容に相違ないことを認めます。

平成 年 月 日

### 議事録署名人

広瀬川創生プラン策定推進協議会 会 長 \_\_\_\_\_ (印)

委 員 \_\_\_\_\_ (印)